かあさんの次の夢

くんま水車の里の皆さん

天竜市熊（くま）地区には村おこしのための活動をNPOにしようとしている団体がある。それは私たちを出迎えてくれた素朴で明るい「くんま」の人たちだった。

村おこしへの思いが収益を得る活動へ

昭和62年に設立された「くんま水車の里」は、食文化や手作りの本物の味を知ってもらうために加工所がほしいという女性たちの夢から実現した。当初は余暇時間の有効利用と地域の「和」づくりが目的だった。多くの事業費や地元負担金（財産区より）の受け皿母体として熊活性化推進協議会（全戸加入。以下「活推協」）が結成され、施設は活推協から借りることになった。当初は資材購入のため会員が資金を出し合い開業の準備をした。

昭和63年に販売所「かあさんの店」をつくってからは、そばなどの地場産品を売ることで徐々に収益が得られるようになった。

男女共同参画社会を実践する「くんま」

がんばる「かあさん」たちに対して地域や家族の反応は最初は厳しいものもあったが、収益をあげることで次第に理解が得られ、協力してくれるようになったという。

活推協が企画する「ほたるを観る会」などのイベントは人をよび、くんまにも多くの人が訪れるようになった。女性たちが一生懸命働き、それをみた男性たちも協力する。このパートナーシップが村おこしの活力になっている。

かあさんの店の手打ちそば

店内で打たれるそばにはそば粉がたっぷり。程よい歯応えとだしの風味、熱々のまいたけの香りが食欲を誘う。

くんまの皆さん

暖かく力強い「かあさん」と地域の人々とのパートナーシップが活動への自信をいっそう深める。

土産物の竹細工のとんぼ

花瓶にさして風に遊ぶ姿を楽しむことも。「かあさんの店」には他に、本物の味をもとめた手作りのみそ・こんにゃくも。

意識統一の不安とNPOへの道

7年前から「みなし法人」として法人税を納めているが、今は任意団体なので後を継いでくれる若い人たちのために法人格を得ようという話がでた。そんな矢先にNPO法案の話を聞いたという。果たして自分たちもNPOになれるのだろうか。村おこしを目的としているが、営利を無視してはいない。今まで地域の中で支えられながら会員同志が平等に活動してきたことを、組織という上下関係の中で、責任を持って活動していかなければならない。意識を変えることで、仲良く築いてきたものがどうかわるのか不安だという。NPOという選択肢は増えたが、ひとつの組織として法的な形をとることは今までに体験したこともないハードルなのかもしれない。活推協でも法人化を検討中だ。どちらがNPOの道をとるのか、これから話し合っていくという。グループではじまった村おこしの活動が、迷いをもちながらも、組織体としての発展の道を進んでいるようだ。

インタビュー3

こんなに変わった若者ファッション

大正

①今のファッションをどう思いますか
②男性のファッションについて
③その他一言

・関東大震災（12年）

昭和

・満州事変（6年）
・国防婦人会結成（7年）
・日中戦争（12年）
・第2次世界大戦（14年）
・贅沢品の製造販売禁止
・終戦（20年）
・洋裁ブーム（25年）
・神武景気（31年）

【世代の声】

20代

①いいんじゃないの。自分もいろいろ着てみてるけど、べつに何か意識しているわけじゃない。
②男の人がおしゃれになってきたけど、スカート姿は「えっ!?」って感じ。
③茶髪は髪が痛むし、ピアスは痛そうだからしてないけど、本人の自由かな。

和服全盛期

この頃までは、女性のほとんどが和服

通行人の「和洋服の比率」（今和次郎）

T14　銀座通りその他 1180人

区分	洋服	和服
男性	67%	33%
女性	1%	99%

（「写真にみる日本の洋装史」遠藤武＋石山彰著（文化出版局）より）

モボ・モガ（モダンボーイ・モダンガール）

先進的な青年男女が着用
・スカートは膝丈に
・髪はボブ→ウェーブ

洋服の普及

一般のお洒落な女性も洋服に

モンペ姿

手持ちの着物を作り直した筒袖の着物とモンペの活動的な服装

イラスト：吉田充代

ピアス・茶髪・キャミソール

30代

①ルーズな格好や下着に近い洋服が流行っていますが、羞恥心がなくなってきたのかしら。
②男性のエステや専用化粧品が珍しくなくなりましたね。ピアスもいいのでは。
③自分の子供が今のファッションをしても OK。本当は自分もしてみたいんだけど。

40代

①好みが全面に出ていて良いと思いますが、もう少し個性があってもよいのでは。
②おしゃれですね。選択肢も昔より増えましたよね。
③若者だけでなく、年配の方のファッションもおしゃれになってきましたね。

50代

①娘も息子もその年代。今の子は「自由」でいいなと思う。堂々としていて、私が20代だったらしていると思う。
②昔とは全然比べものにならない。「キレイになりたい」願望が強いわね。
③キャミソールで目上の人に会ったり、授業を受けたりするのは失礼。TPOを考えて。

自分を表現するファッションへ

・キャミソール
・ジャージ

女性の自立、キャリアウーマン

・パンツスーツ
　男性と対等に
　動きやすい
・スーツ（スカート）

・いざなぎ景気・物価高
・ジーンズ流行
・DCブランド人気

平成

・好景気
・ファッションの多様化

女？それとも男？

ファッションが多様化し、性別にもこだわらずに個としての自分を表現しているのが、今の若者といえるのかもしれません。

今後さらに、ファッションがどのように変わっていくのかが楽しみですね。

優美なシルエットの洋服

洋裁ブームや海外のモード・映画の影響（「ローマの休日」など）による流行があった。

本のゆうえんち

事例からみるＮＰＯのあり方

『ＮＰＯとは何か』
社会サービスの新しいあり方
電通総研
日本経済新聞社

阪神・淡路大震災を契機に急速に注目を集めるＮＰＯの現状から、政府との役割分担、資金確保の方法、組織のマネジメントの課題など、ＮＰＯの定義を述べるとともに、問題点をより具体的に指摘。さらに、欧米の先進事例を交えＮＰＯのすべてを紹介。

入門書として使える講演録

『ＮＰＯ基礎講座』
山岡義典
（ＮＰＯセンター
常務理事・事務局長）
ぎょうせい

日本ＮＰＯセンターが実施した「ＮＰＯ塾・第一期基礎講座」の６回分の記録に手を加えてまとめたもの。「ＮＰＯとは何か？」という基本的な問題から、「自治体・企業・助成団体との望ましいパートナーシップをいかに築くか？」という具体的な問題まで、ＮＰＯのオピニオン・リーダーらによる実践に基づいた説得力ある解説。

NPO設立のチェックポイントを紹介

『NPO法人ハンドブック』
シーズブックレット・
シリーズNo.5
シーズ
シーズ　市民活動を
支える制度をつくる会

ＮＰＯの定義やボランティアとの違いなどＮＰＯの基礎知識、ＮＰＯ法全文、法律の使い方、その法律で法人化する手続き、その際に検討しなければならないことまでを、表や図で具体的にわかりやすく解説。

ＮＰＯのつくる社会への希望

『ＮＰＯの可能性』
本間正明　上野千鶴子
（宝塚ＮＰＯセンター）
かもがわ出版

経済、福祉、社会のあり方を市民が変える。フィランスロピー（〔欧米では〕個人や団体が教育、研究、医療、福祉、環境保全などのために、奉仕活動を行ったり寄付金を拠出したりすること）と女性学からその可能性を提起。

ＮＰＯの必要性を解説

『NPOが
新しい社会をつくる』
市民活動促進法と
エンパワーメント
広岡守穂
石川自治研ブックレット
No. 1

法案検討下において的確な視点から、これからの社会のあり方を方向づける画期的なものとして、市民活動促進法案をわかりやすく解説。また、ＮＰＯとは何か、どんな活動を行っているのか、実際に草の根から活発な活動へとつなげていった実例を紹介。

ことばのひろば

【法人】
人間ではないが、法律上人格を与えられているもの。法律行為を有効にし、権利義務の主体と認められた組織体。

【みなし法人】
事業所得または不動産所得を生ずる青色申告者で、税の軽減を目的として、法人税の課税方式に類似した方式での課税を選択したもの。

【財団法人】
公益法人の一つ。
一定の目的に提供された財産を独立のものとして運用するため、その財産を構成要素として法律上その設立を認められたもの。
この他の公益法人には、社団法人がある。

【財産区】
特別地方公共団体の一つ。
市町村または特別区の一地区で財産を有しまたは公の施設を設けているものがある場合、その管理・処分について権限をもつもの。

トクトク講座紹介

あざれあサタデーサロン好評！

今年度から第３土曜日（一部第４）に講座生が自分の興味にあったテーマを選び参加し、性差（ジェンダー）の問題について考える講座を始めました。そのなかから２つの講座のエッセンスを御紹介しましょう。

ひとりひとりの意識が差別報道をなくす鍵

メディアにみる女性観・男性観（6月20日）

読売新聞社記者　山口正紀（やまぐちまさのり）さん
人権と報道・連絡会世話人

マスコミの社会というのは、男性社会です。このため、男性本位な視点でのニュースが報道されることが多いのです。

例えば、女性の（性）被害者に対して「なぜ逃げなかった」とするのは、性暴力に鈍感な男性の視点での報道です。

また、会社員の被害者に対する「できる女ほど墜ちる」という表現も働く女性全体へのバッシングです。

このような記事の偏った見方に気付く方法の一つとして「女」を「男」に入れ替えてみましょう。そして①批判的な視点でチェックし、差別報道は許さないという意思表示をすること、②書かれた人の立場で想像してみること、により一人ひとりが報道を見直してみることが大切です。

お墓って何だろう？（7月18日）

お墓の歴史　意外と新しく江戸時代から

静岡県高齢者協同組合
みやもとやすじさん

先祖からのお墓を引き継いだ方も多いでしょう。お墓の歴史は意外に新しく江戸時代ごろからのようです。古くは権力者の証（古墳）であり、庶民は自然の風化にまかせていました。江戸時代の仏教の普及に伴い貴族・武士から庶民へと普及（丸い墓石の一人墓）しました。明治時代の火葬の普及・家制度の導入により現在のような共葬墓地（先祖代々の墓）ができたのです。そして、社会・意識の変化や墓地不足によりアパート式の納骨堂や散骨など多様化する傾向に向かっています。また、お墓の問題は「家制度による制約」など女性問題の一つでもあります。タブーとされてきたお墓の話は、少子化の流れの中で真剣に考えなければならない時代になったといえるのではないでしょうか。

お墓の問題は皆さん自身の問題です

《表紙デザインについて》

静岡県デザインセンター　小杉思主世（こすぎしずよ）さん

秋風のマズルカ

空気がひんやりとして落ち葉の色鮮やかなときは、椿や南天が元気よく色づく頃でもあります。色とりどりの秋から冬の風物を、多彩なヒューマンリレーションのイメージとしてデザインしました。

ねっとわあく No.33

編集にあたりご協力いただきました皆様に、心から感謝申し上げます。〈編集員一同〉

企画・編集
河合登代子さん（静岡市）
杉山　恵子さん（浜松市）
鈴木美津子さん（焼津市）
堀川美紀子さん（静岡市）
編集アドバイザー
太田　榮三さん（熱海市）

発行　平成10年11月
編集　静岡県女性総合センター
住所　〒422-8063
静岡市馬淵1丁目17−1
電話番号　054-250-8107

募集①

あざれあサタデーサロンは
2月まで開催！

「簡単クッキング（1月23日）」「男らしさの病（2月20日）」「交流会（2月27日）」

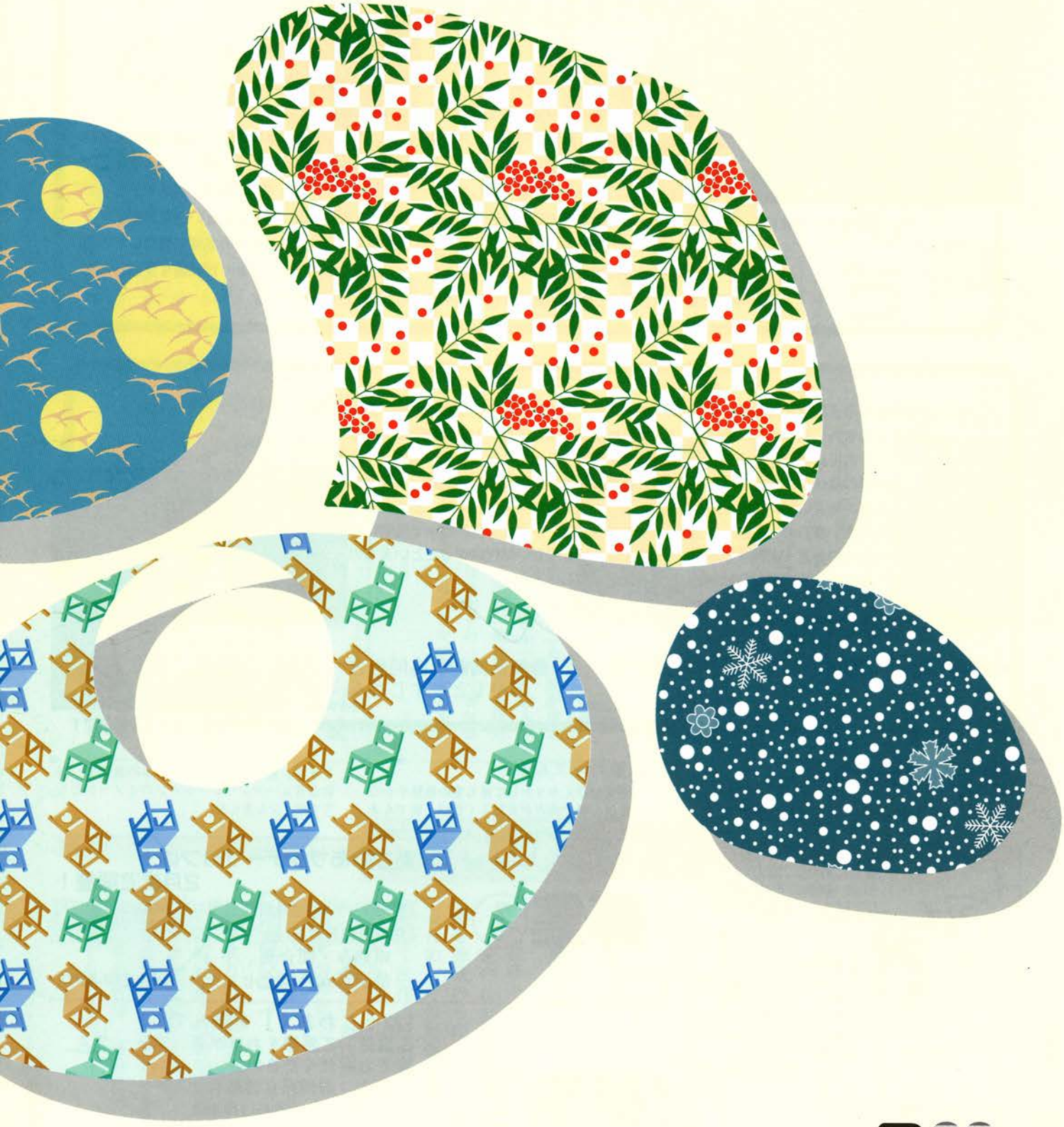
申込み・問合せ
静岡県女性総合センター　054-250-8107

募集②

『ねっとわあく』を読んで
ご意見、ご感想をおはがき、ファックス等でお寄せください。

宛先　静岡県女性総合センター
『ねっとわあく』編集係
〒422-8063　静岡市馬淵1丁目17−1
FAX　054-255-9266
メール　azarea@sizuokanet.ne.jp

静岡県



R80
古紙配合率80%再生紙を使用しています